

# MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

むさしのパークライフマガジン

MPM

2019  
AUTUMN  
WINTER  
VOL.12

YOUR PARK LIFE : Park Life × 木

FOCUS : 樹木医のおしごと

ESSAY : ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

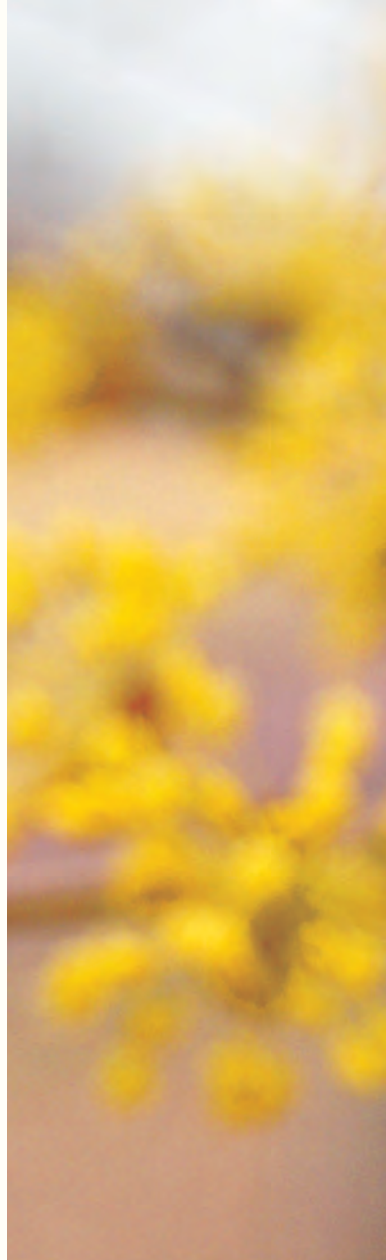
ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。





都立野川公園「サンシュユ」

# Park Life × 木

公園に木があるのはあたりまえ？

ちゃんと観察すると

たくさんの発見があるんです。



都立野川公園「クスノキ」

サービスセンターの前のクスノキ。推定樹齢は120年ほど。公園がICU(国際基督教大学)のゴルフ場だった頃や、その前の中島飛行場の敷地だった時代などを見つめてきたはず。こんもりと枝葉を広げた樹形が美しい



公園に行くたくさんの木々が迎えてくれます。春には若葉や花で心を和ませ、夏は緑陰で体を休ませる。秋の紅葉や木の実に子どもたちも喜び、冬の木立のたくましさに感動を覚えます。

でも、木の名前や種類、それぞれの特徴はあまり知られていないかもしれません。同じ種類の木でも、育った場所や日当たりによっても全然違う表情を見せていたり、よく見てみると葉っぱや幹、花や実がとってもおもしろい形をしていたりします。

この場所が公園になる前の幾つかの時代を経て、大きな木になったものもあります。

むさしの公園ではひとつひとつの個性を大事にしつつ、全体の景観や生態系も考えながら、できるだけいねいに樹木を見守っています。皆さんもじっくり観察して、それぞれの木のおもしろさを見つけてみてください。

公園の樹木をよく見ると  
それぞれいろんな表情を見せてくれます。

ラクスショウ



ゴンスイの実と葉っぱ



コナラの葉っぱとどんぐり

恐竜の時代である中生代の地層から化石が見つかり、“生きた化石”とも呼ばれる大木のラクウショウは、真っ赤に紅葉した葉や枝を下から見上げると、その姿は空に広がる血脈のように雄大に見えます。

赤い実が目をはひくゴンスイは、材がもろく用途がないことから、棘があり役に立たないとされる魚の樫瑞（ごんずい）と同じ名前がつけられてしまいました。でも実は“日本の良い小舟”という学名を持っていて、赤い船のような袋から覗く黒い種子が愛らしい樹木です。

武蔵野の雑木林を代表するクスギヤコナラは、黄色く染まった美しい葉と、帽子をかぶった可愛いどんぐりを地面に落とします。このように、秋から冬にかけて、公園の樹木はさまざまな色彩で私たちに季節の訪れを教えてくれるのです。

むさしの都立公園のHPでは、公園で見られる植物や樹木の情報をまとめた「レンジャーミニ図鑑」「樹木観察マップ」をダウンロードすることができます



## 木の特徴を使ってあそぼう！

綺麗な色の葉っぱや、まんまとした実など、身近にある樹木を素材にして親子で一緒にあそびませんか？トチノキやホオノキの大きな葉っぱは、目の穴を開けるだけで、楽しいお面に。厳しい冬を乗り越えるためにつくられる冬芽は、鱗片や長い毛で覆われているので、木によっていろいろな手ざわりを楽しめます。ふわふわとしたその触り心地は、爪につけると毛深いネイルに変身！赤や黄色に色づいた葉を布に転写して自分だけのハンカチをつくったり、ムクロジの実から黒い種を取り出し電球につけると、レトロガラスのように光るイルミネーションがたのしめたりします。このように色や質感に特徴のある素材で小物を作るのも、秋ならではの楽しみ。

葉の落ちたあとの季節は冬芽や葉痕をじっくり観察して歩くのもオススメ。じっとみつめると誰かの顔に見えてくることも…？



1



2





3

4

5

6

1. トチノキのお面
2. コブシの花芽を使ったふわふわネイル
3. 葉っぱに布をあててスプーンなどでこするとそのままプリントできる  
(都立浅間山公園・キスゲフェスティバル)
4. ムクロジの外皮を使ったイルミネーションライト
5. ムクロジの実。種子は羽子板の羽にも使われる
6. フジの冬芽はだれかに似ている？





2



3



4

1. 国分寺崖線の斜面など、高所作業車が入れない場所ではプロの技術者によるロープクライミング工法で樹木の剪定などをします
2. 樹木診断をして、樹勢を回復するための土壌改良などを行います。写真は都立武蔵野公園の桜の木
3. 樹木ひとつひとつにタグをつけ、GPSと連動したアプリで維持管理するプログラムに取り組んでいます
4. 地域の生態系や公園の景観、樹木の特徴などを理解してトータルに管理するランドスケープマネージャー

## 最新技術で

愛情たっぷりに

こそだ  
木育てています。

森や雑木林のようにたくさんの種類の樹木が生えている公園の緑は、美しい景観で私たちに癒してくれます。また、防風林や防火帯としての重要な機能を持っています。一方、大型台風やゲリラ豪雨などによって、樹木が倒木するなどの事故が起きないよう、安全も確保しなければなりません。そこで、木々の特徴などを理解して、造園や景観という2つの視点からトータルに樹木を管理する「ランドスケープマネージャー」が、計画的に樹木管理を行っています。

公園の樹木を管理する上では、老齢化による倒木や落枝、枝が張りすぎて隣家に越境するなど、いくつかの課題があります。武蔵野公園では、1本1本の木の状態を把握するため、園内の約4,000本すべての木に番号のタグ付けを行い、GPS機能を持ったアプリを用いた管理を始めています。そのうえで、適切な時期に剪定や伐採を行い、公園の樹木が健全に成長するよう対処しています。また、舗装などで樹木の根が窮屈になって弱っていることもあります。そこで、木の周りの舗装を広げ、土壌改良材を加えて、根をのびのび伸ばし、水や空気をたくさん取り込めるような環境づくりをすすめています。浅間山公園のように、雑木林に覆われ自然豊かな公園では、地元の保護団体や専門家とともに、生態系の保全を考えたガイドラインを作り、下草刈りや伐採更新などに取り組んでいます。

このように、ランドスケープマネージャーは、樹木の生命力と人々の安全面を両立させていくため、長期的な計画をたて熱意を持って樹木管理を行っています。

## 樹木医のおしごと

岩谷美苗先生 NPO法人 樹木生態研究会理事

樹木医は木のお医者さんです。木は人や動物のように体調が悪い様子がわかりにくいですが、その木の声を聞いて、どうしたら元気になるのか考えるお仕事です。森林インストラクターで樹木医の岩谷美苗先生は、学生時代に武蔵野周辺に住んでいたため、この地域にも詳しく、公園にもよく訪れているそうです。岩谷先生に木のたのしみ方を教えてもらいました。



みんなに愛される木といえば、花がきれいな木、巨木などの名木があげられるでしょう。

それ以外の木は、さほど注目されません。そんな中で「アルパカみたいな木」なんて名前がつくとどうでしょう。もうそれ以外には見えなくなり、気になり始めます。

これは、さえない子（木）がいきなり注目される魔法の言葉です。「木は難しい」と臆することはありません。植物に詳しくない人のほうが、固定観念が無いのでおもしろい名前をつけます。



私は樹木医という仕事をしています。

樹木医は現在全国に2000人ほどが活躍していて、1割程度が女性です。危険な木がないか、元気のない木をどうやって元気にするかなど調べています。

でも、樹木といえば苦情か保護のどちらかで、どうも樹木を語るとき、窮屈な雰囲気があります。私はもっと笑いがあれば、たくさんの人が自由に樹木について語りあえるのではないかと考えています。

みなさんにどんどんおもしろい木を見つけていただき、いろんな魔法の言葉が生まれるといいな、と期待しています。

岩谷美苗



### 【ワイド判】 散歩が楽しくなる 樹の手帳 (東京書籍)

散歩でよく出会う樹木の特徴やおもしろ雑学を記した手帳。イチヨウは「天然古代な不思議ちゃん」や、サクラは「したたかなアイドル」など、岩谷さんの木への独特な愛情にあふれた解説は必見。街路樹の見方がまるっと変わります。携帯に便利な手帳サイズと、見やすいワイド判があります。



### 子どもと木であそぶ (東京書籍)

身近にある木の枝や葉っぱ、花や実を材料に、その特徴を使った遊びをを提案。アオダモの枝をつけた水にブラックライトをあてると青く光る実験や、くるくる回って落ちてくる種をキャッチする遊びなど、親子で木のおもしろさを体験しながら遊べる本。お父さんと一緒にぜひ遊んで欲しい。



### 街の木ウォッチング オモシロ樹木に会いにゆこう (東京学芸大学出版会)

街路樹や住宅の庭木など街の中で出会える木を、学術的な種類や特徴で分けるのではなく、木の形や現象によって仲間分けして観察。空洞木、くつつき木、乗っ取り木など見た目で見分ける、どうしてそうなったのかを解説することによって、木を見ることを楽しんでもらおうという一冊。

えっ、木にこんなあそび方が…!?

子どもにも教えてあげようかしら…!

NEWS

参加者募集中! /

## むさしのカレッジ「木を楽しむ — 樹木医が教える“木あそび”ガイド」

ちょっと誰かに自慢したくなる「木あそび」を多数紹介！普段、何気なく見ている木のフシギやおもしろさについて、学んでみませんか？親子での参加も歓迎です！  
(前半：野外観察 後半：室内レクチャー)

【講師】樹木医 岩谷美苗氏 (NPO法人 樹木生態研究会理事)

【開催日時】2019年11月24日(日) 10:00～14:00 ※荒天中止

【対象】小学3年生以上 [定員]先着20名 [参加費]500円(保険料、資料代含む)

【持物】筆記用具、昼食、飲み物、帽子、歩きやすい服装

【集合場所】都立野川公園自然観察センター

【申込先】都立野川公園サービスセンター TEL 0422-31-6457



枝の蛍光ペン？

## ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.11

今日は昼ごろから玉川上水緑道を歩こうと決めていた。朝食をゆつくりとり、トレッキングシューズと帽子を選ぶ。台所で彼女が何か楽し気に歌っている。

拝島線に乗ると、電車は概ね玉川上水に沿って走る。ということは終点までのどこかで降りても、上水沿いを歩いて帰れる。

「二駅くらい歩こうか?」

電車を待ちながら言った。

「写真を撮ったり、木の実を拾ったり、ゆつくり歩くでしょう?」

二駅目の玉川上水駅を出れば、まさに目の前が玉川上水。太い水路いっぱいの水が、落ちるような速さで流れていく。色づいたノブドウや、センニンソウの綿毛を楽しみながら行くと、水は大きな工場のような施設へ呑み込まれる。ここで汚れを除き、多くを東村山浄水場へ分けるのだ。残った水は玉川上水と、さらに細い用水へと分かれる。

「玉川上水は逆さまのフォークね」

普通、川は小さな支流を集め、しだいに太くなり海へ注ぐ。しかし玉川上水は最初が一番太く、水を分ける度に細くなり、人の営みの中へ届き消える。自然の川と逆さまのフォークなのだ。そのフォークは40kmの長さがあり、美しい緑の緑道を従える。

住宅街を抜け、畑や学校の脇を抜け歩く。

赤いマンネンタケが出た切り株は、二抱えはありそうだ。禁伐だった江戸時代から、上水を守ってきた木かもしれない。

緑道脇に無料で入れる足湯があった。ハラハラ落ち葉が降る中で、湯に足を浸した。水に浮くアカシデの黄葉を、彼女がすくってこちらに流す。

軽くなった足で緑道へ戻りすぐ、広い庭の門に、「オーブンガーデン」と書いてあった。見学できる個人の庭ということらしい。背丈ほど育った花の海を、泳ぐように進み、小さなゲストハウスに着く。庭の主人を探すが、どうやら不在のようだった。彼女が瑠璃色の蝶の翅を拾い携帯で撮る。夢の中のような世界が写っていた。

鷹の台駅近くまで来て、小さな古道具屋を覗く。近くの美大生がよく来るようだ。こういう衣装は舞台美術の子、こういうガラス瓶は絵画の子が買っています…

「やつぱり三駅は無理だったわね」

裸のケヤキに夕日が落ちる。玉川上水にこそ武蔵野が残っている。水と緑に引き寄せられた、人の暮らしに出会えるところ。

蜂須賀公之

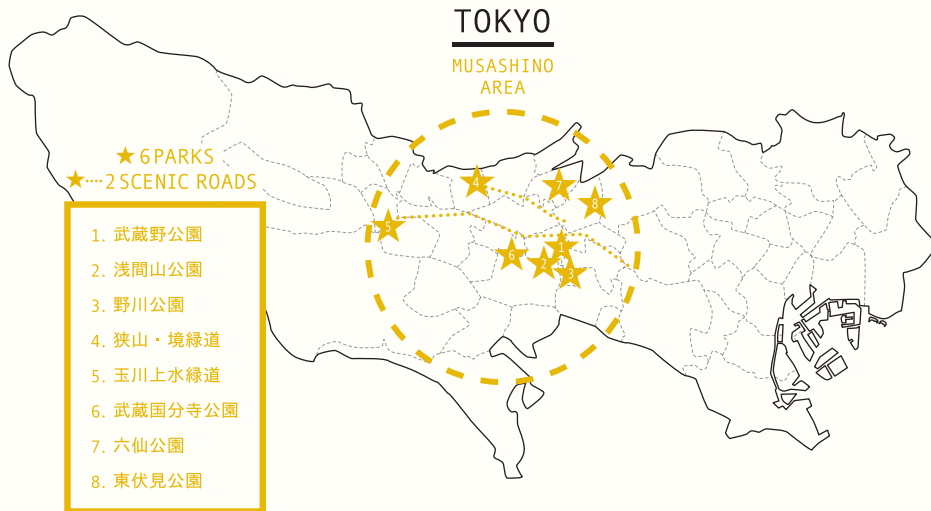
はちすか まさゆき

武蔵野生まれ、武蔵野育ち。東京の自然をこよなく愛するレンジャー、インテリブライター。

## 西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は、2011年より武蔵野エリアの公園と緑道を管理してきました。2016年からは西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズノスポーツサービス(株)に、一般社団法人防災教育普及協会を加えた共同事業体として、新たなスタートを切りました。

「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、さらに公園の可能性を広げるため、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com>

発行日：2019年10月18日

デザイン：川上明子

写真：NPO法人NPObirth / 岩谷美苗

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ / リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真 / 都立野川公園 (撮影：木村成美)

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINEのバックナンバーは、むさしのの公園のHPで見ることができます。  
<http://musashinoparks.com/magazine/>



MUSASHINO  
PARK-LIFE  
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>